

戦後の日本漢方医学界の展望

日本東洋医学会及び東亜医学協会を中心として

原 桃介

漢方研究学会・団体

- 1) 東亜医学協会 1350名 1938年(1954)
- 2) 日本生薬学会 1600名 1947年
- 3) 日本東洋医学会8500名 1949年
- 4) 和漢医薬学会 1000名 1984年(1967)
- 5) 日本漢方交流会 800名 1968年
- 6) 日本漢方協会 1000名 1970年
- 7) 日本東方医学会 500名 1983年
- 8) 日本小児東洋医学会600名 2001年
(会員500名以上)
- (日本統合医療学会、日本統合医学研究会、日本補完代替医療学会は除く)

各大学医学部にある漢方関連の研究 施設・講座(2008年現在)

- 研究所・センター
- 北里大学 東洋医学総合研究所
- 近畿大学 東洋医学研究所
- 東京女子医科大学 東洋医学研究所
- 富山大学 和漢医薬学総合研究所
- 慶応大学医学部 漢方医学センター
- 自治医科大学 地域医療センター
東洋医学部門

- 講座
- 東京大学医学部 漢方生体防御機能講座
- 東北大学大学院医学系研究科 先進漢方治療医学寄付講座
- 富山大学大学院医学薬学研究部 和漢診療学講座
- 日本大学医学部 統合和漢医薬学分野
- 大阪大学医学部 漢方医学講座
- 京都府立医科大学 東洋医学講座
- 群馬大学医学部 統合和漢診療学講座
- 千葉大学大学院医学研究院 和漢診療学講座・先端和漢診療学講座
- 東海大学医学部 東洋医学講座

戦後の日本漢方医学界の展望 要約

- 0. 戦前・戦中の漢方医学界
- 1. 日本生薬学会、東亜医学協会、日本東洋医学会、和漢薬学会など学会の設立
- 2. 漢方エキス剤の開発、臨床応用、研究
- 3. 漢方剤の薬価収載
- 4. 東洋医学研究所の設立
- 5. WHO伝統医学協力センター指定

要約

- 6. 専門医制度の確立
- 7. 日本医学会分科会加盟
- 8. 医学教育コア・カリキュラムに和漢薬を追加
- 9. 大学医学部に漢方講座の開設
- 10. 漢方のEBM研究
- 11. 国際東洋医学会など国際交流
- 12. 漢方標榜科の実現

戦前・戦中の漢方医学界

- 1895年漢医提出の医師免許規制改正法案
否決 議会闘争敗北
- 1934年日本漢方医学会創立「漢方と漢薬」発刊
1935年漢方医学講習会「借行学苑」結成
大塚敬節、矢数道明、矢数有道、石原保秀、柳谷素盞、
木村長久、清水藤太郎 三派合同の講習会
- 1938年東亜医学協会結成 「東亜医学」発刊
- 1943年同愛記念病院に東亜治療研究所を設置
板倉武内科医長所長就任
- 1945年 太平洋戦争敗戦 無条件降伏

戦後の漢方医学界の動向

- 1947年5月 千葉医大に東洋医学自由講座
開講 伊東弥恵治教授提唱によ
る東洋医学研究所設置の計画樹立
- 1947年 日本生薬学会設立
- 1948年4月 東亜医学協会主催 戦時中物
故せる漢方医家合同慰霊祭

日本東洋医学会の設立

- 1950年3月 日本東洋医学会創立総会が
慶応大学医学部北里記念図書
館会議室にて開催
創立当時会員98名 議長板倉武
理事代表 龍野一雄
設立当時の東洋医学研究目的(趣意書)
基礎理論・臨床機構・治療方法・歴史批判
証の医学、生薬薬理学、経絡経穴の研究
- 1953年8月 日本医学会に分科会加入申請
29中賛成3で否決
- 1954年8月 東亜医学協会再発足 矢数道明理事長就任
「漢方の臨床」発刊

漢方エキス製剤の歴史

- 1944年 東亜治療研究所 漢方エキス製剤
の開発に成功 板倉武、川上岩雄
- 1945年 漢方エキス製剤「小柴胡湯」
胸膜炎における臨床比較試験(東亜治療研究所)
- 1947年 「漢方方剤の煎出法に関する研究」
渡邊武、後藤実(日本薬学会)
- 1950年 細野史郎、坂口弘 漢方エキス製
剤20種類を作り、賛同者を求める
- 1957年8月 小太郎製薬、長倉製薬、漢方エキス製剤35処方製造
発売
- 1967年6月 初の漢方エキス製剤4処方保険薬価収載(小太郎漢方
製薬)

戦後初期の漢方医学書

- 1949年 板倉武著「治療学概論」
- 1952年 龍野一雄著「漢方入門講座」第1巻
- 1954年 奥田謙蔵著「傷寒論概観」
- 1954年 荒木性次著「古方薬叢」
- 1955年 朝比奈泰彦編纂「正倉院薬物」
- 1956年 杉原徳行著「漢方医学」
- 1961年 長浜善夫著「東洋医学概説」
- 1963年 大塚敬節著「症候による漢方治療の実際」
- 1964年 矢数格著「漢方一貫堂医学」
- 1966年 石原明著「日本の医学」
- 1966年 南京中医学院編纂「中国漢方医学概論」邦訳
- 1966年 大塚敬節著「臨床応用傷寒論解説」
- 1966年 矢数道明著「臨床応用漢方処方解説」
- 1967年 山田光胤著「漢方処方の実際」
- 1969年 大塚敬節・矢数道明・清水藤太郎著「漢方診療医典」
(「漢方診療の実際」大塚・矢数・清水・木村長久著1941年の大改訂、改名版)

第1回和漢薬シンポジウム

—漢方薬の科学的研究にはずみ—

- 1967年9月第1回和漢薬シンポジウム
- 立山阿弥陀が原山荘で開催、
- 富山大学薬学部和漢薬研究施設主催、
施設長木村康一のもとに、
- 東大島良雄、吉利和、
阪大山村雄一、京大脇坂行一、名大坂
信一、富大、東医歯大の内科教授、講
師と東洋医学関係者合わせて230名参加、
「代謝異常」をテーマとして発表。東洋医学関
系者の発表;木村康一、細野史郎、矢数道明

高橋暁正著「漢方の認識」の衝撃

- 1969年10月 高橋暁正著「漢方の認識」発行
- 計量診断学と計量治療学の立場から、
- 東洋医学の有効性に対する厳正な批評。
- 1969年12月 「漢方の認識」を読んで、意見交換会。
- 矢数道明;「著者は批判者であると同時に東洋医学に大きい期待をかけ、その主体性の確立と科学的実証を望んでいる。新しい進んだ理解者の一人である。」

できごと(1967~1973) (北里東医研設立)

- 1967年12月 国立千葉病院内に東西医学臨床研究班発足。厚生省科学補助金により「長期療養者に対する生薬投与の意義に関する研究」
- 1968年5月 厚生省医学補助金「生薬製剤による臨床的研究並びに薬物的検討」
- 1972年6月 北里研究所附属東洋医学総合研究所設立発足の祝賀披露パーティをバレスホテルにて開催。大塚敬節所長に就任。厚生、文部大臣、武見医師会長、笹川良一船舶振興会会長の祝辞。東西両医学者、湯液鍼灸薬系の招待者全国より参加。
- 1973年10月 第1回千葉東洋医学シンポジウム開催

矢数道明博士を搞う会

- 1973年5月 東亜医学協会創立38周年、「漢方の臨床」創刊20周年、「漢方の治療百話」の出版を記念し、「矢数道明博士を搞う会」を開催。発起人代表藤平健、司会山田光胤。
- 各界代表の来賓;大塚敬節、細野史郎、木村康一、代田文誌、大島蘭三郎、坂口弘。
- 計102名
- 大塚敬節先生祝辞:「五臓稟賦解」「矢数先生の人柄は土系の黄帝に似て、丸顔で頭が大きく、手足は上下の釣り合いがよく取れている。そして心が柔和で親切で、権力を振るうことを喜ばず、よく人の世話をする。そして律儀者であり、人からもよく思われ、人をよく取り立てる。矢数先生は実に温厚篤実で包容力のあるご性格なので、それが今日の漢方界の大同団結、復興の機縁になったのです。」

一般用漢方210処方制定

- 1974年 一般用漢方210処方制定
医療用漢方製剤はその手引きに基づいて申請承認
中央薬事審議会漢方生薬製剤調査会
(大塚敬節、浅野正義、西本和光、菊谷豊彦)1972年発足。当時の日本製薬団体連合会の漢方専門部会の提出した素案をもとに、漢方製剤の効能・効果、用法、用量などを検討し、1974年、210処方について答申した。これが一般用漢方210処方の内規である。

できごと(1975)

- 1975年5月 第19回日本医学会総会にて始めて「東洋医学」のシンポジウムを企画、木村康一司会、「東洋医学と薬」;岐阜薬大江田昭英、富大大浦彦吉、徳大梶本義衛、千葉大熊谷朗、北里研大塚恭男。
- 1975年10月 国立富山医科薬科大学認可
東洋医学を併立した構想にて発足
- 1975年11月 近畿大学病院で東洋医学科が設立され、有地滋教授就任

漢方エキス製剤薬価収載

- 1976年8月 漢方エキス製剤43処方が薬価基準に収載。漢方は医療保険に採用。
 1. 疾病構造の変化、薬害の多発
 2. 国際的に伝統薬の見直し
 3. エキス製剤技術の開発
 4. 漢方製剤の法的整備
 5. 武見太郎医師会長の存在と厚生省の決断
(菊谷豊彦;漢方製剤の医史学的検討)

できごと(1977~1979)

- 1977年3月 日本東洋医学会社団法人認可
法人化促進委員長 山田光胤
- 1978年11月 大塚敬節 日本医師会最高
優功賞受賞
- 1979年2月 大塚敬節、矢数道明責任編集
「近世漢方医学書集成」名著出版
第1回配本「和田東郭」名著出版より刊
行。第1期、第2期、各30冊、第3期40
冊、第4期16冊、合計116冊。5年を要
して完遂。

できごと(1979~1980)

- 1979年4月 第20回日本医学会総会、
東洋医学シンポジウム「東地医家の
ために」北里研大塚恭男、名市大
高木健太郎司会
- 1979年10月 富山医科薬科大学付属病院
和漢薬診療所設置 寺澤捷年主任
- 1979年11月 矢数道明「東洋医学の発展に貢献
した功労者」として日本医師会最高優功賞受賞
- 1980年5月 第31回日本東洋医学会金沢総会に中国より
崔月翠中華全国中医学会長らを招待して、学会として始めて
日中東洋医学会交流の軌道にのる。

主な漢方定期刊行誌

- 漢方の臨床 東亜医学協会 1954
- (東洋医学 自然社) 1973
- (現代東洋医学 医学出版センター) 1980
- 中医臨床 東洋学術出版社 1980
- 漢方医薬新聞 東洋医学舎 1982
- 漢方と最新治療 世論時報社 1992
- 漢方療法 たにぐち書店 1997

惜しまれた「現代東洋医学」

- 1980年7月 「現代東洋医学」創刊号発刊
医学出版センター 編集委員
大塚恭男、菊谷豊彦、代田文彦、
原田正敏、庄治順三
1996年、17巻2号で廃刊
現代医療における漢方薬の運用、生
薬の薬理作用、古典、基礎理論、最近
の研究成果や知見等東洋医学の総合的解釈
をめざした雑誌として大変評価された。

できごと(1980~1982)

- 1980年10月 大塚敬節先生逝去
- 1980年11月 矢数道明 北里研究所付属
東洋医学総合研究所所長に就任
- 1981年7月 第8回国際薬理学会「和漢薬の作用機序」ワークショップ
座長 大塚恭男
- 1981年10月 日中友好「傷寒論シンポジウム」北京にて開催
- 1982年4月 日本東洋医学研究機関連絡協議会(日東医協)
第1回総会北里東医研にて開催
北里東医研矢数所長の提唱で設立
日本における東洋医学の確立と各東洋医学研究機関の相互連絡、情報
交換、さらには国際交流に対応する体制と資料の統合などを行う
連絡協議会。
日東医協会報の発行。

矢数道明先生の東洋医学会への 問題提示

1. 東洋医学の総合的基礎的研究の確立
2. 日本医学会分科会加入
3. 国際交流機関の設置
4. 漢方講師団の編成
5. 各種団体代表者会議の結成
6. 漢方治療による保険問題
7. 各大学における基礎的並びに臨床研究の
推進
8. 国立または公立の東洋医学研究所並びに附属
病院の設立

できごと(1982~1985)
(漢方製剤の削除反対運動、第4回
国際東洋医学会)

- 1982年10月 張中東「漢方製剤の安全性」
日本東洋医学会学術訪中団、医師東洋医学研究会が参加。
河南省南陽市
- 1983年3月 第56回日本薬理学会総会シンポジウム「薬理学と東洋医学の接
点に関する諸問題」座長大塚恭男
- 1983年5月 医療用漢方製剤の薬備基準よ
り削除に対して日本東洋医学会健康保
険対策委員会(委員長菊谷豊彦)は絶対
反対の趣旨を厚生省に提出 反対署名運動。
- 1983年7月 日本漢方生薬製剤協会設立
- 1984年10月 第17回国際内科学会(京都)テーマ「東と西の内科学」
サテライトシンポジウム「今日のアジアの伝統医学」座長大塚恭男
- 1985年10月 第4回国際東洋医学会(会頭坂口弘)、日本東洋医学会主催、「伝
統と発展」を掲げ、京都国際会館において国内937名、海外20カ国、208名参加。

できごと(1986)(北里東医研、WHO
伝統医学協力センター指定)

- 1986年3月 北里研究所東洋医学研究所
WHOより伝統医学研究協力センターに
指定。開所式に三笠宮寛仁親王殿下、
中嶋宏WHO西太平洋地域事務局長、
来賓臨席、大塚恭男副所長の司会、矢数
道明所長経過報告。
- 1986年5月 「漢方保険診療指針」発刊
日本東洋医学会漢方保険診療指針編集委員会
(編集長菊谷豊彦、委員20名)編
1986年7月 北里東医研所長矢数道明退任。
大塚恭男新所長就任。

できごと(1987~1988)

- 1987年4月 第22回日本医学総会にて
東洋医学サテライトシンポジウム二日間
開催
- 1987年6月 日本東洋医学会は3回目の日
本医学会分科会加入申請、79票中賛成
34票で否決
- 1988年4月 富山医科薬科大学と漢診療部、
WHO伝統医学研究協力センターに指定
- 1988年11月 東亜医学協会創立50周年記念大会
- 1988年12月 板倉武先生生誕百周年顕彰会

できごと(1989~1990)
(専門医制度発足)

- 1989年5月 日本東洋医学会専門医制度
発足。規約制定。1990年経過措置にて5369
名認定
- 1996年 試験制度実施(日本専門医認定機構に
加盟)5年ごとに更新
- 1990年5月 厚生省長寿科学総合研究費、
老人医療における、漢方の役割、鍼灸の
役割、東西医学の融和。三カ年研究費
3000万円
- 1990年10月 第6回国際東洋医学会 会頭山田光胤
「科学と伝統」国立教育会館 参加国24、1300名

できごと(1991~1993)
(日本医学会分科会加盟)

- 1991年6月 4回目の日本医学会分科会加
盟申請に対する評議委員会において、
85票中57票で承認
- 1991年11月 「日本東洋医学会の新発展
を期する会」日本医学会分科会加盟を祝
して、ホテル・グランドパレスにて開催
- 1991年11月 第1回漢方湯液治療研究会
- 1992年4月 東京女子医大附属東洋医学研究所、代田文彦
教授が東洋医学の講義を開始。富山医薬大学に次ぐ講義。
- 1993年4月 富山医科薬科大学で和漢薬講座開講。文部省
認知によるわが国最初の医学部の漢方医学講座。

「東洋医学の科学的実証」の成果と影
響

- 1986年11月 「東洋医学の科学的実証」
(証、経穴の科学的実証及び生薬資源の
確保に関する研究)研究報告書 産業時
報社より発行
科学技術庁は漢方医学に正面から取り組
み、そのメカニズム解明のために総合研
究費10億円計上。1979年より6年間に
わたり、約100名近い研究者が総力を挙げて行
った。(北里研、近畿大学東医研、富山医科大学、
兵庫県立東医研参加)

成果と影響

- ・「瘀血の診断基準と病態解析に関する研究」
富山医科薬科大学 寺澤捷年
「瘀血の診断基準」
- ・高橋暁正著「効かない？漢方薬QandA」1990年
「漢方薬は危ない」1992年
「漢方薬は効かない」1993年

日本医学会は黙殺
韓国医学会への影響

世界の動き(CAM)

- ・ Eisenberg DM. et al.
Unconventional medicine in the United States.
New England Journal of Medicine. 328, 1993
- ・ 日本における相補・代替医療学会の発足 (complementary and alternative medicine: CAM)
- ・ 1998年12月 日本代替・相補・伝統医療連合会議 代表 渥美和彦
- ・ 2007年12月 日本統合医療学会発足 理事長渥美和彦

できごと(1994 ~2001) (小柴胡湯に対する緊急安全情報)

- ・ 1994年5月 日本東洋医学会「会長及び役員の見直し」細則 制定 会長選挙
- ・ 1994年6月 第4回国際アジア伝統医学大会
日本東洋医学会、国際アジア伝統医学研究協会共催
会頭大塚恭男、世界19カ国より約1200名参加。
- ・ 1996年3月 小柴胡湯に対する緊急安全情報 厚生省 1989年から1996年までに小柴胡湯による副作用薬剤性肺炎135例発生
- ・ 1996年7月 東京大学医学部 生体防御機能講座 丁宗鑑助教授
- ・ 1997年11月 日本臨床漢方医学会結成 1200名 保険削除問題に取り組む。
- ・ 1999年5月 第50回日本東洋医学会・第10回国際東洋医学会合同学会(会頭 松田邦夫)「21世紀の新しい医療—伝統医学と近代医学の調和をめざして」
東京国際フォーラムにて開催。参加者約2700名
- ・ 2000年 漢方薬・生薬認定薬剤師制度発足
- ・ 2001年4月 北里大学大学院に東洋医学講座設置 花輪寿彦指導教授

コア・カリキュラムに和漢薬が入る

- ・ 2001年3月
医学教育コア・カリキュラム
一般目標「診療に必要な薬物の基本」
「和漢薬を概説できる」追加
寺澤捷年教授の尽力による。
薬学教育コア・カリキュラム
「漢方の概括的理解」
- ・ 2002年12月 「入門漢方医学」日本東洋医学会学術教育委員会
- ・ 2006年 「実践漢方医学」
- ・ 2007年4月 「学生のための漢方医学テキスト」
- ・ 2009年12月「専門医のための漢方医学テキスト」

漢方とEBM

- ・ 2001年6月 第52回日本東洋医学会総会 特別講演「漢方医学の発展とEBM」 丁宗鑑
- ・ 2001年6月 日本東洋医学会にEBM委員会設置 委員長秋葉哲生
- ・ 2002年9月 2002年中間報告「漢方治療におけるEBM」
- ・ 2003年3月 「EBM漢方」寺澤捷年・喜多敏明編著
- ・ 2005年7月 漢方治療におけるエビデンス レポート 日本東洋医学雑誌56巻
- ・ 2009年9月 漢方治療エビデンスレポート
2009-320のRCT 日本東洋医学会 EBM特別委員会委員長 津谷 喜一郎 学会web上公開

日本東洋医学サミット会議

- ・ 2005年5月 日本東洋医学サミット会議
(The Japan Liaison of Oriental Medicine JLOM)発足
日本東洋医学会、全日本鍼灸学会、和漢
医薬学会、日本生薬学会、北里大学・
東洋医学研究所・WHO伝統医学協力センター、
富山大学医学部・WHO伝統医学協力センター6組織。
(日本東洋医学会石野尚吾前会長の主導)
目的: 1. 伝統医学に対する国の支援体制確立
2. WHO関連伝統医学用語・情報の国際標準化への協力
3. その他伝統医学に関する国際的事業への協力。
- ・ 2007年「WHO伝統医学標準用語集」出版
- ・ 2008年「経穴の位置の標準化」出版
- ・ WHO国際疾病分類第11版(ICD11)に伝統医学の病態と病名収載が
厚生労働省とWHOで決定

できごと(2005~2010) (漢方標榜科の実現)

- 2005年10月 千葉大学医学部和漢診療学講座 開設 寺澤捷年教授就任
- 2006年4月 千葉大学東洋医学自由講座開講60周年記念講演・祝賀会 ホテルグリーンタワー千葉で開催
- 2008年4月 慶応義塾大学医学部漢方医学センター開設 渡邊賢治助教授就任
- 2008年9月 漢方標榜科の実現を祝う会 帝国ホテルにて開催
- 2010年2月 第15回国際東洋医学会 幕張メッセ「Harmony of Oriental Medicine and Modern Medicine」 会頭中田敬吾、13カ国、532名

21世紀になって逝去された方々 日本東洋医学会

- 2002年10月 矢数道明先生
- 2003年1月 代田文彦先生
- 2003年4月 坂口 弘先生
- 2004年2月 渡邊 武先生
- 2004年7月 難波恒雄先生
- 2006年8月 長谷川弥人先生
- 2009年3月 大塚恭男先生

戦後の日本漢方医学会の展望 要約

- 1. 日本生薬学会、東亜医学協会、日本東洋医学会、和漢薬学会など学会の設立
- 2. 漢方エキス製剤の開発、臨床応用、研究
- 3. 漢方製剤の薬価収載
- 4. 東洋医学研究所の設立
- 5. WHO伝統医学協力センター指定
- 6. 専門医制度の確立
- 7. 日本医学会分科会加盟
- 8. 医学教育コア・カリキュラムに和漢薬を追加
- 9. 大学医学部に漢方講座の開設
- 10. 漢方のEBM研究
- 11. 国際東洋医学会など国際交流
- 12. 漢方標榜科の実現

参考文献

- 1. 矢数道明著 明治110, 117, 122年漢方医学の変遷と将来 漢方略史年表 春陽堂 1979, 1986, 1991年
- 2. 矢数道明編・編集局増補 東亜医学協会70年の歩み 東亜医学協会 2010年
- 3. 石野尚吾 現代医療の中の漢方医学、専門医のための漢方医学テキスト 日本東洋医学会 2009年
- 4. 安井廣迪 医学生のための漢方医学 東洋学術出版社 2008年
- 5. 日本東洋医学会 10年史、20年史、30年史、40年史、50年史
- 6. 国際東洋医学会30年史 国際東洋医学会 2005年
- 7. 菊谷豊彦 漢方の臨床53巻9号p.1520,2006
- 8. 原桃介 漢方の臨床52巻12号P.2097,2005

謝辞

- 丁宗鐵先生のご助言に感謝いたします。

